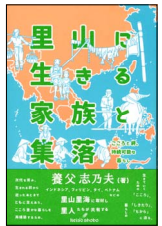




五大風土記の要約と解説 古代の地理書の魅力を探る

奈良時代の713年に、中央政府の命令によって編さんされた『風土記』。多くは散逸してしまいましたが、まとまった状態で残された常陸・出雲・播磨・肥前・豊後の5か国の『風土記』の要約と時代背景を解説し、地誌的なポイントを地図や写真・イラストで図解する。

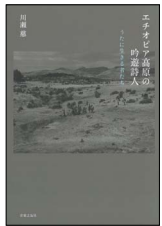
風土記 (別冊太陽) 瀧音能之・監修 平凡社
A4変型並製 160頁 2018年刊 ISBN:9784582922684 2,750円



里山里海に生きる人々が共有する暮らしの「ちから」に迫る

里山にある、次代を育み、生まれる前から逝ったあとまで共に支えあう、こころ豊かな暮らしを再構築するには何が必要とされるのか。インドネシア、フィリピン、タイ、ベトナムなどの里山里海に取材し、私たちの暮らしの礎をもう一度見つめなおす。

里山に生きる家族と集落——こころと絆、持続可能な暮らし
養父志乃夫・著 勁草書房
四六判上製 324頁 2017年刊 ISBN:9784326654062 3,080円



吟遊詩人アズマリとともに歌い生活した日本人の記録

エチオピアには古来アズマリやラリベラという伝統芸能者がいて、儀式的場を盛り上げたり、門付けをして報酬を得たりしていた。この集団に参加した著者が、芸能者の地域生活の中での役割を考察する。2021年度サントリー学芸賞(芸術・文学部門)を受賞!!

エチオピア高原の吟遊詩人——うたに生きる者たち
川瀬 慈・著 音楽之友社
四六判上製 252頁 2020年刊 ISBN:9784276135710 3,300円

* 価格は10%税込です

出版社クイズ

なんと名前前の出版社かわかりますか?

①数多ある刊行シリーズ、またはロングセラーの名前をひとつでも聞けば、すぐにそれと分かってしまう出版社。創業者は江戸と京坂を往来して書籍の取次業を始めた。だが、明治3年に京橋にて貸本屋の大革新を試み「書物来読貸観所」を構え、著名な学者によって「日本に於ける図書館の濫觴(らんしょう)なり」と称賛されたことは案外知られていない。

②当時の内閣書記官の推薦を受け宮内省御用書肆(しよし)となったため、明治期から現在に至るまで皇室関連史料も多数刊行している。

③会社のロゴマークはスフィンクス。謎と矛盾に満ちた不思議な「人間」の象徴であり、人間の文化と歴史の出版を志すものの指標として使用され、現在の「書物は文化、良書を読者へ」というブレることなき信条として受け継がれている。

*クイズの答えは次号(10号)=梓会加盟出版社を紹介してゆきます

前号のクイズのお答え

創業100年を迎える実用書の老舗 新星出版社

大正12年、創業者富永龍之助は和歌山より上京し富永興文堂を設立。大阪の湯川明文館の発行する震災番付を東京で販売し出版の礎を築く。昭和5年より児童書・実用書の出版を始める。そのころ画家書家中村不折に「興文堂書店」の書を頂く。昭和16年日配神田営業所代表、昭和19年企業統制により金の星社等と「株式会社児童圖書出版社」を設立。昭和32年ころ新星出版社と改称し、児童書・実用書に加え各種資格試験問題集の刊行を開始、現在に至る。

ビジネス書、翻訳出版、電子書籍等にジャンルを広げ、2023年創業100周年を迎える。



梓会 図書館クラブ 通信

Azusa-kai Library Club



図書館は本の森。出版梓会は事典から絵本までユニークな本を丁寧に作る出版社の集まりです。この葉では毎回テーマを決めて、読書の愉しみを、ひとりの時間を極上にしてくれるお宝本を、こっそりお教えします

今回のテーマは、
「落ち着く、安らぐ、
『ふるさと』って何だろう」です。



それは単に生まれ育った土地のことではありません。過去にも未来にも、すぐ傍にも遥か彼方にも、そして心のなかにもあるそんな「ふるさと」について、考えてみます。

2022年09号
出版梓会
データダウンロードはこちら⇒





郷里をまっすぐに、時に影のように描く全六篇

徳島生まれ。故郷で徳島文学協会、文芸誌『徳島文学』等の活動。本書は三田文学新人賞受賞作「青空クライシス」ほか六つの短編を所収。吉村萬壱氏推薦「魂を抉る言語以前の野生の叫びが、透徹した小説世界のど真ん中を貫いている。」

郷里 佐々木義登:著 亜紀書房

四六判上製 256頁 2018年刊 ISBN:9784750515403 1,760円



「メダデみたいなの、けったいな家族があってもええやないか？」

50歳を過ぎて教師から牧師に転身した西田好子。家族に見放され職場を追われ、居場所を失って西成のメダデ教会に辿り着いた約20人の信徒たち。「ド真剣」に生きる西田牧師と、懸命に人生を生き直そうとするおっちゃんたちの姿を活写したノンフィクション！

愛をばらまけ——大阪・西成、けったいな牧師とその信徒たち

上村真也:著 筑摩書房

四六判並製 200頁 2020年刊 ISBN:9784480818553 1,540円



十六羅漢を語り手に 谷戸の村の150年を描く

「やと」とは、なだらかな丘に挟まれた、あさい谷のことをいいます。この絵本では、多摩丘陵がモデルのちいさな谷戸に建てられた、かやぶき農家と、そこに暮らす人々の変わりゆく姿を、明治時代から平成へと至る150年にわたって、精緻な描写でたどります。

やとのいえ 八尾慶次:著 偕成社

22×31cm上製 40頁 2020年刊 ISBN:9784034379004 1,980円



街を見ることば、街を想うまなざし。詩と写真の50年。

1950年代、60年代に著者自ら撮った写真と当時の連作「東京バラード」に、90年代以降の詩（書き下ろしを含む）を加え、詩と写真でつづる、生れ育った「東京」の半世紀。「都市に住む人々の意識下にはいつまでも海と砂漠がわだかまっている」

東京バラード、それから 谷川俊太郎:著 幻戯書房

四六判上製 288頁 2011年刊 ISBN:9784901998819 2,420円



原風景のみが触発する魂の故郷心のよりどころ再発見！

逞しく、大らかに、そして赤裸々に！人間性を謳歌し賛歌した万葉人たちの「春の時代」は、実は激動の時代だった。不安と恐怖の中でこそ美しく歌い上げられた、神々と自然を恐れ敬う「言霊」。今こそ巡ってもらいたい万葉の旅路を、絵と文で導く旅先案内本。

旅と絵でたどる 万葉の道——日本人の原風景を求めて

永井 郁:著 日本教文社

四六判並製 274頁 1997年刊 ISBN:9784531062959 2,305円



ふるさとへの想いがあふれる『まちなみイラスト』の世界

美しい日本のまちなみをイラストで発信することで地域の誇りを醸成し、様々なツールを使って日本の魅力を再発信する団体「マーチング委員会」。全国64箇所まで広がったその活動の軌跡を紹介。近年話題になっている地域活性化ビジネスの実情がわかります。

ふるさとを再生させる まちなみイラストのチカラ

——共感と感動が「ひと」と「まち」を変える

利根川英二:著 新星出版社

四六判並製 160頁 2019年刊 ISBN:9784405130081 1,760円



日本の風景をつくる百姓仕事の面白さを語りつくす

自然環境が守られても日本中の風景一田んぼ、里山、赤とんぼが舞う、ありふれた村の風景一が、見苦しくなっているのは、なぜか。生きもののにぎわいと結ばれてきた百姓仕事の心根とまなざしが、近代化の海の中で溺れかかっているからだ。

風景は百姓仕事がつくる 宇根 豊:著 築地書館

四六判並製 312頁 2010年刊 ISBN:9784806713968 1,980円



地方色あふれるしめかざりの形

宝珠、鶴、俵…しめかざりには多彩な形がある。全国を訪ね歩いた著者が、飾りを外した、わらの造形の美しさを系統立てて紹介。土地の作り手との交流、しめかざりに込められた思いなどを通して、消えゆくふるさとの伝統を伝える。カラー写真多数。

しめかざり——新年の願いを結ぶかたち

森 須磨子:著 工作舎

A5判上製 200頁 2017年刊 ISBN:9784875024880 2,750円



市民と行政の協働態勢によるコミュニティづくりとは？

市民参加を前提にした武蔵野市の「コミュニティづくり」の変遷を、「基盤整備期」「政策定着期」「政策転換期」の3つの時期に分けて詳述。市民と行政の協働態勢の実現に至る歩みから、政策としてのコミュニティづくりの全体像に迫る。

政策としてのコミュニティ

——武蔵野市にみる市民と行政のパートナーシップ

高田昭彦:著 風間書房

A5判並製 320頁 2016年刊 ISBN:9784759921250 2,970円



東大生産研が白菜でコンクリートの4倍の強度の建材を開発したんだって！ フジッコ昆布&胡麻油&マヨの白菜サラダも美味しいよ♪